

## 安積百三十周年と安積桑野会

安積高等学校長 久保田範夫（八十八期）

時は半年前に遡ります。春めく陽射しが学舎に降り注ぐようになり、

安積野の大地にも少しずつ躍動の気が満ちてきた平成二十六年三月一日、  
安積高校第百二十七期生卒業証書授与式が行われ、その中で私は、卒業  
生に次のように語りかけました。

「……皆さんは、三年前の三月十一日、中学校卒業式の日、長い人生の  
中でも数少ない、正に「晴れの日」に東日本大震災を経験し、大震災後  
に高校に最初に入學して三年間の高校生活を送り、最初に卒業するとい  
う、謂わば「大震災後の高校一期生」とも言えるでしょう。（中略）

卒業生諸君、君たちは安積高校創立百二十七年目に入學、同期生と共に、  
百二十八年、百二十九年と安積の時間を刻んできました。この安積  
で、場所・時間や言葉・記憶を共にし、勉学に励み、部活動で仲間の大  
切さを実感し、紫旗祭でクラスが一つになり、安積の空気を胸一杯吸い  
込み、「安積」という学校文化を三年間共有してきました。正に安積の  
誇り・プライドを身につけたのだと私は考えます。お互いのことを知ら  
なくても、過ごした時代が少し違っていても、安積という文化を「同じ

くする」ということが、安積を母校とする人と人とを結びつけてきたのであり、それはこれからもずっと変わらないはずです。

皆さんは、卒業後も更に多くの人々と出会い、関わりながら生きていくことになります。どうか、奇跡としか言いようがない出会い・巡り会いを大切にし、夢の実現を目指して、常に謙虚で誠実であることを心がけ、感謝の気持ちと思いやりの心を持って歩んでください。……」

この最後の部分は言うまでもなく、全国各地の安積桑野会の先輩方を念頭に置いてのものです。昨年の母校着任以来、早くも1年と5か月が過ぎようとしています。卒業後も続く安積の大きく強い輪の存在、安積の絆を様々な場面で痛感させられました。

安積を卒業して間もない大学生諸君が、難関大学研究会等で後輩達にアドバイスをしたりということは他の高校でもあることですが、同窓会組織である「安積桑野会」の各支部の活動が活発なことは、他校では、というより全国でもあまり例を見ないと思います。昨年度は、校長就任一年目ということもあり、都合がつく限り出席するよう努め、五月から十月にかけての土曜日の夕方、仙台、宇都宮、関西（昨年は京都開催）、福島県庁、二本松、郡山市役所、須賀川、石川の各支部総会にお邪魔しました。今年度は、昨年行けなかった盛岡、東京、福島（県庁桑野会と

は別)の各支部にお邪魔しましたが、この他にも、青森、本宮、安積町、湖南、猪苗代、三春、矢吹、いわき、白河、香港・華南の支部が現在あります。

他校でも県内外に同窓会組織はありますが、あまり活動していないのが現状と聞いており、一方、安積桑野会は、総会の開催だけではなく、昨年度発足した「関西桑野会学生会」のように、現役の大学生を支援したり交流・親睦を図る組織があるなど活動がとても盛んで、しかも母校安積への熱い思いを持った先輩方が実に大勢いて、安積の絆を益々強くし、また、安積の輪を広げています。こういったことは、安積の同窓生にとっては当たり前のことで、改めて書くようなことではないのかも知れませんが、他校の校長さん達は安積桑野会の現状を聞くと、皆一様に驚くべきことと捉えており、今回敢えて記した次第です。

今年度は創立百三十周年、桑野の現在地に移ってから数えても百二十五年という大きな節目の年に当たります。昨年十月に仮オープンした安積歴史博物館（私はつい「旧本館」と言ってしまうのですが）も完全復活の予定です。ちなみに、同窓会の歴史を紐解くと旧制中学時代の明治二十五年九月に同窓会が設立され、二十七年には東京支部、三十四年には仙台支部が活動を始めており、昭和二十三年の新制「安積高等学校」誕

生の翌年には「安積桑野会」が生まれ、現在に至っています。明治から数えると百二十二年になるのです（！！）。

私事で恐縮ですが、巡り合わせが良いのか悪いのか、私は学校の周年行事に縁があるようです。昭和五十五年、新採用一年目の只見高校では、何が何だかわからない状態で創立三十周年記念式典を経験したのを皮切りに、安積御館校では、五十周年の前年に教務主任として務め、平成十年の五十周年記念式典には県教育庁総務課企画班の管理主事として、当時の杉原陸夫教育長の随行として参加しました。白河旭（旧白河女子）高校では、教頭として九十周年直前の二年間準備に当たりました。母校安積に関しては、九十周年を三年生の生徒として、百十周年を教諭として、そして百三十周年を校長として、不思議なことにちょうど二十年刻みで大きな周年行事を経験することになり、このサイクルだと、私が生きていればですが、七十七歳の年に百五十周年を迎えることになります。何らかの形で関わることでできればと思っていますが、果たしてその願いは叶うのか……。いずれにせよ、二十年後はおろか十年後を予測するのも困難な時代ではありますが、不思議と安積高校に関しては、二十年後・五十年後の「安積」をイメージしてしまうのは私だけでしょうか。